

# —生き方としての社協人を考える—

## 1. 趣旨

社協の仕事はプライベートとパブリック（仕事）を簡単には分けることができない仕事です。住民主体の原則を掲げ、住民の主體的な活動を興すのがパブリック（仕事）ですが、私たち自信も仕事を終え帰宅すれば一人の住民になるわけで、その意味では住民の一人としてのあり方というのも、考えていく必要があるのです。（あまりにきっちりとプライベートとパブリックを分けすぎると、その姿は地域住民の目にどのように映るのだろうか、と思いませんか？）

今回「生き方としての社協人」というのをキーワードとしました。プライベートとパブリックが切り離せないのですから、双方に関連付け合いながら自身の生き方を探ることができる面白さがそこにはあるように思えるのです。

社協はただ賃金を得る為だけの職場なのでしょうか。社協に努める社協人の自己実現を考えてみると、ひいては地元地域の福祉向上につながるように思うのです。

本研修ではそうした切り口から、事例報告者からは社協での活動ではなく、一人の住民としての動きをお話していただき、プライベートとパブリックの相関関係について考察していきます。

## 2. と き 令和4年1月29日（土） 13時30分～16時30分

## 3. ところ JR博多シティ9階 会議室1

（〒812-0012 福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1）

## 4. 定 員 20名

## 5. 内 容（タイムスケジュール）

13:30～開会・趣旨説明

13:40～パネラーより活動の紹介

### 報告① 大淵健一朗さん / 熊本市社協「障がい児保護者としての活動」

**紹介** 長女（レット症候群、指定難病）、長男（発達障害）の支援に一保護者として取り組んでいる（レット症候群児者親の会「さくらんぼ会」副会長）。サービスの受け手という立場で福祉の現場にいることに悩みつつ、様々な社会に参加してもがきながら活動中。

**報告② 後藤 文造さん／奈良市社協「奈良言友会での活動」**

**紹介** 奈良言友会に当事者の一人として参画する。2019年には言友会全国大会吃音ワークショップを大阪市での開催に尽力され、「社協と言友会活動の親和性」をテーマに分科会を運営。その中で「ボクは、職場で思いっきりどもったろーと思ってんねん！」という名言が生れる。

**報告③ 國武 竜一さん／うきは市社協「グリーンツーリズムの活動」**

**紹介** うきは市の中山間地域に生まれ育つが、今や周りは空き家や耕作放棄地の増えた過疎集落に。発想を転換して、住民が困っている荒れ地の草刈りや竹切をワークショップにし、補助金を活用しながら、里山環境保全活動と里山を楽しむ活動（自然体験や田舎料理、山菜野菜の収穫など）をミックスし、住民の一人として田舎と街を繋げる活動を実践し、里山を何とか未来に繋ごうとしている。

**報告④ 白井 雄生さん／美祿市在住の社協職員「私のロン毛とギターと歌と」**

**紹介** 「なんでそんな長い髪しちよるんか？」と注意を受けると、すかさず「ヘアードネーションなんですよ」と切り返す。ギターを持てばバンドマンの顔をなり、地元の高校生や高齢者を巻き込んで音楽活動を行う。過疎地だからこそ、楽しく集える場所をつくろう！をモットーに自由な発想で活動中！

15:00～グループワーク「『私のプライベートとパブリックの相関関係』」

15:50～全体共有

16:10～報告者より一口コメント「社協のことを社協の中だけで考えるな！」

16:22～まとめ「喝！あなたが連呼する“住民”の中に、“あなた”は入っているのか？」

話し手 中川史高さん／中堅社協職員研修委員会委員長・うきは市社協

16:30～閉会

**6. 申込方法** 別紙参加申込書に必要事項を記入いただき、令和4年1月20日（木）までにメールまたはFAXにてお申し込みください。

申し込み・問合せ先 うきは市社会福祉協議会 中川

**電話** 0943-76-3977

**FAX** 0943-76-4329

**MAIL** nakagawa@ukiha-shakyo.or.jp